

●地震による強い揺れを事前にお知らせする

緊急地震速報(その仕組みとは)

最近テレビでよく目にする「緊急地震速報」。高山市でも3月から4月にかけて、市内各所に設置されている防災行政無線のスピーカーや高山防災ラジオから「緊急地震速報」が放送されました。

今号では緊急地震速報の仕組みについてご紹介します。



S波到来を可能な限り早く知らせるシステム

地震は、S波とよばれる大きな揺れ(主要動)の前に、P波と呼ばれる小さな揺れ(初期微動)がきます。このP波をとらえ、地震の規模や震源地を予測し、大きな揺れであるS波がやってくる数秒から数十秒前に発表するのが「緊急地震速報」です。

気象庁が瞬時に解析して発表します

地震発生直後のP波を検地した

気象庁の地震計(全国に約1000カ所配置)は、瞬時に気象庁にデータが伝送され、気象庁のコンピュータが直ちに震源や地震の規模、予想される揺れの強さなどを自動計算します。

その結果、最大震度が5弱以上と予測された場合に、震度4以上が予測される地域に対して気象庁は「緊急地震速報」を発表します。

震源に近いところでは間に合わないことも

震源近くでは、P波とS波との到達時刻にほとんど差がありません。したがって速報が間に合わないことがあります。だからこそ日ごろの備えが重要になるのです。

緊急地震速報を聞いたらどうすればいいのか

まず慌てず落ち着いて行動することが大切です。

家庭内では 大きな家具から離れ、丈夫な机の下に隠れる。

屋外では ブロック塀の倒壊や看板・ガラスの落下に注意する

運転中では ゆっくりスピードを落とし、ハザードランプを点灯させ、周囲の車に注意を促して停車する。

人が大勢いる場所では 係員の指示に従い、慌てて出口に走り出さない

エレベーターでは 最寄りの階に停止させすぐ降りる

引き続き地震情報には注意してください

放送されたが揺れは感じなかった緊急地震速報の発表

3月と4月に市内で数回にわたって、防災行政無線や高山防災ラジオなどから緊急地震速報が放送されましたが、実際には地震による大きな揺れは観測されませんでした。

これは3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の発生以後、国内の広範にわたって地震が多発しており、ほぼ同時に複数の地震が発生した場合などにおいて、気象庁のコンピュータがそのデータを適切に処理できず、的確な発表ができない状況であったためです(気象庁調べ)。

また、S波がすでに高山市へ到達したものと気象庁のコンピュータがみなすと、高山市の防災行政無線には緊急地震速報の放送を制御する機能が働き、放送されません。しかし、テレビや携帯電話のサービスにはその制御機能がないため、放送されたり、エリアメールが送信されたりしました。